

特集 おもしろ研究・先生XII

古文書に書かれた日本語を探して
日本の「外」から日本語を捉え直す



三重大学人文学部・准教授
川口 敦子 Kawaguchi, Atsuko
[URL] <http://kyoin.mie-u.ac.jp/profile/2599.html>

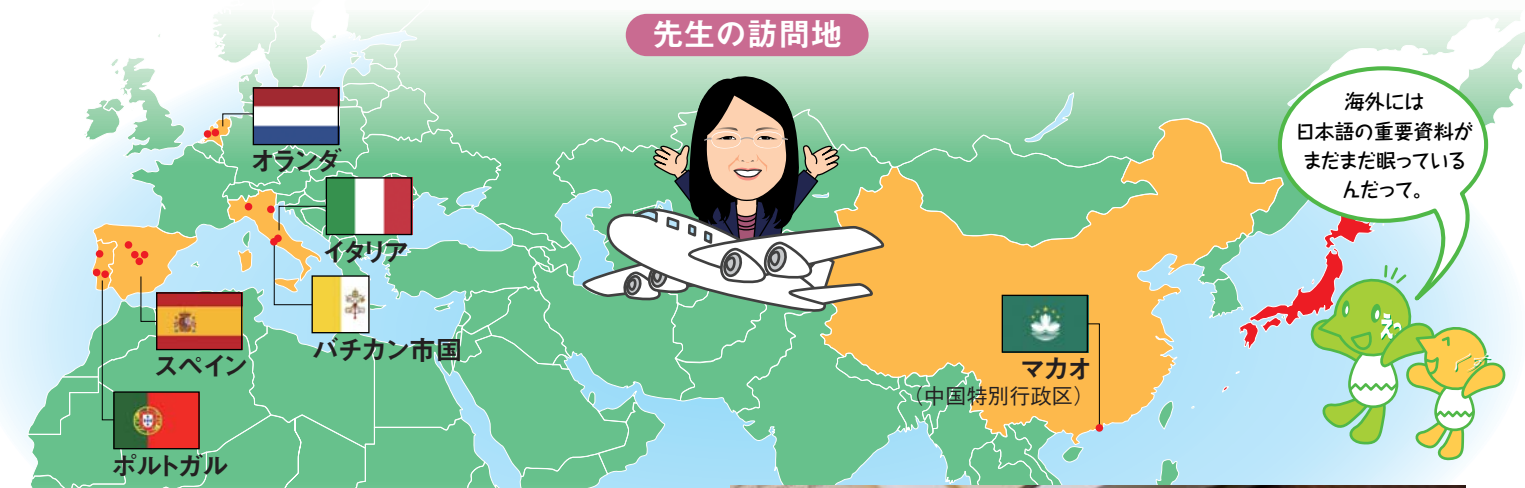
資料室にて

日本語研究、けど外国

「日本語なのに、なぜ外国へ？」
研究のためにイタリアやスペイン、ポルトガル等に行くと
言うと、よく質問されます。
16世紀末に来日したキリスト教の宣教師は日本語を学習し、
辞書や翻訳書を作り、そして日本について記した報告書や
手紙を世界各地に送りました。そこにはヨーロッパの知識人
の目を通した日本の姿があります。また、ローマ字書きの日本
語は、仮名ではわからない発音の手がかりとなる、当時の日
本語を知る一級の資料です。こうした文書は江戸時代の弾
圧によって日本にはほとんど残っていませんが、ヨーロッパの
図書館や文書館には今も大量に残されています。しかし、そ
のほとんどは、現地でしか見ることができないのです。



スペイン国立図書館(スペイン/マドリッド)
※写真は2012年の設立300周年時のもの



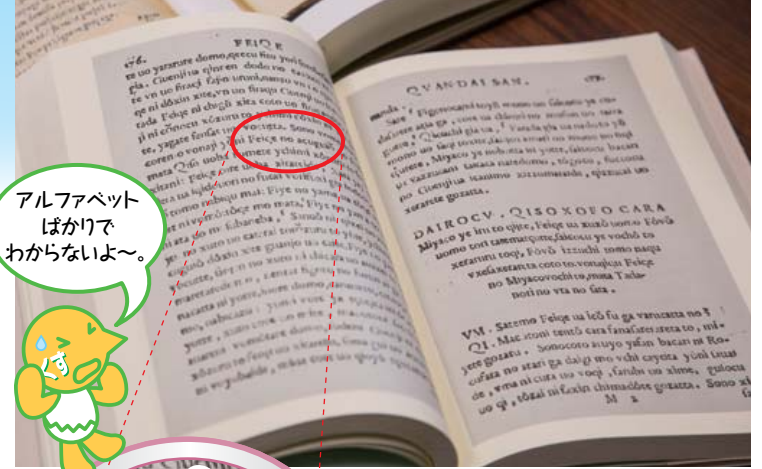
キリシタン版の日本語は
どこまで「生の日本語」か？

天草版『平家物語』などの「キリシタン版^{*}」は、ご存じの方
も多いでしょう。当時の日本語の話し言葉がローマ字で書かれ
た、日本語学習のための教科書で、日本語史の資料としてとて
も有名なものです。ただし、「教科書」という性格上、いづれか規
範的な日本語で書かれている可能性があります。現代でも、教
科書で覚えた外国語と現地で実際に使われている言い回し
が少し違う、ということがありますよね。その上、印刷本は編集
過程で校正が入ったり、印刷機の技術的な都合で綴り字が変
えられたりするので、必ずしも本当の「生の日本語」がそこにあ
るとは限りません。

^{*}16世紀末から17世紀はじめにかけて、キリシタンが主に日本で出版した活字本のこと

手書きの古文書から日本語を「発掘」する

そこで私が注目しているのは、「教科書」よりも実態を反映し
やすい手書きの文書類です。個人のクセや誤りも勘案して分
析すると、当時の日本語の実態がよりよく見えてきます。こうした古文書は数が膨大で、電子化とオンライン公開を待っていただけでなく、電子化の際のミスや解像度の問題もあるので、やはり実物を見に行くのが一番です。
古びた目録を紐解き、お目当ての文書を探し出す——実に手間が掛かりますが、ワクワクする作業でもあります。どんな日本語があるのか(ないのか)、そこから何を読み取るべきか。日本語の歴史研究には、そんな宝探しのような楽しさがあります。



アルファベットばかりでわからないよ〜

Feiqe no acugiũo

||
フェイケ ノ アクギヤウ

||
平家の悪行

よく見てごらん。
全部ローマ字なのに、
中身は日本語
なんだよ。

【天草版平家物語 大英図書館本影印】発行/勉誠出版